

褒賞授与は町功労者表彰式典と合同開催

第43回産業文化祭

開催期間／11月2日(土)、3日(日)
会場／広域五城目体育館、町民センター

- 《行事内容》
- 各種展示コーナー 2日・3日 9:00~15:00
 - 食、即売コーナー
 - だまこもち 2日・3日 11:00~14:00
 - うどん、手づくり漬物 2日・3日 11:00~14:00
 - みそたんぼ(売切れ次第終了) 2日 11:00~
 - 農産物等 2日・3日 11:00~14:00
 - 木育コーナー 木の温もりと感触を直接楽しもう!!
どんぐり、松ぼっくりなどで、いろいろなものを作ろう!
手作りおもちゃワークショップ 2日・3日 10:00~15:00
木のおもちゃで遊ぶ木育ひろば 2日・3日 10:00~15:00
 - 苗木プレゼント 2日 10:00~
 - やまゆりの鱗片(ポット入り)プレゼント 3日 10:00~
 - 第36回五城目町芸術文化協会芸能発表会 2日 10:00~
 - 食育コーナー 2日・3日 10:00~15:00
 - 健康コーナー 2日・3日 10:00~15:00
(減塩食試食は2日のみ、血圧測定は両日)
 - 警察コーナー 2日・3日 10:00~12:00
 - 救急コーナー 2日・3日 10:00~12:00
(緊急時・雨天時は中止)

町産業文化祭では、産業や文化活動の成果を展示公開しています。町発展の息吹をぜひ肌で感じとってください。

●出品作品を募集中
産業文化祭では、農林産品や商工業品などの出品作品を次のとおり募集しています。

▼農林産品
①水稲 ②畑作物
③果実 ④野菜、花き
⑤農林園芸加工品等

▼生活工夫展
①衣類更生品
②改良工夫品

●褒賞授与(町功労者表彰式典と合同開催)
各部門ごとに出品物の審査を行い、優れているものに対して主催者賞などを授与します。

褒賞授与は、11月3日(日)午前10時から、広域五城目体育館で、町功労者表彰式典と合同で行います。

お茶のつどい(町民センターロビー/10:00~15:00)

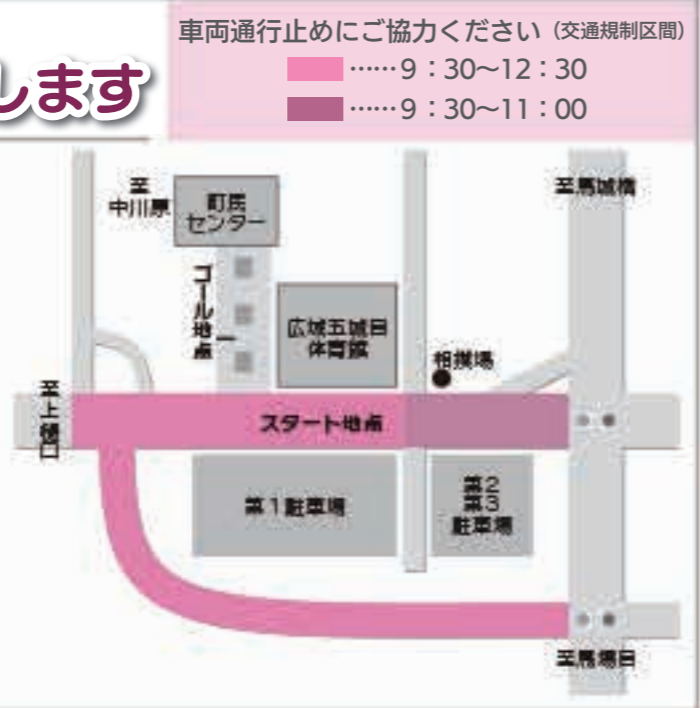
▶11月2日(土) 石州流
▶11月3日(日) 大日本茶道学会
※当日、茶券(200円)を販売します。

お問い合わせ 産業文化祭事務局(町農林振興課内) ☎852・5215

朝市マラソンは10月27日(日)に開催 沿道からの声援をお願いします

第26回五城目朝市500年記念マラソン大会を10月27日(日)に開催します。
当日は、スタート・ゴール地点となる広域五城目体育館前の町道雀館幹線と町道岩野高崎線を車両通行止めとします。(駐車場への出入りも制限します)
また、県道秋田八郎潟線などの車道をランナーが走ります。事故のないようご協力くださいますようお願いいたします。

▶期 日 10月27日(日)
▶開 会 式 午前9時~
▶ス タ ー ト 午前9時55分~
▶会 場 広域五城目体育館前
(スタート・ゴール)



9月8日 消防士の仕事を体験 五城目消防フェア2019

9月8日、町消防本部で「五城目消防フェア2019」を開催しました。
消防フェアでは、消防車・救急車の展示と乗車体験、つなわたり体験などを行い、子どもたちが消防士の活動を体験しました。
最後には、6月の町消防訓練大会で優勝した町消防団第10・11分団の皆さんが小型ポンプ操法を披露し、来場者から大きな声援が送られました。



つなわたり体験や放水体験、第10・11分団の皆さんによる小型ポンプ操法の実演などが行われました。



約450人が出席し、長寿を祝い合いました。

8月29日 みんなで長寿を祝う 敬老福祉の集い

8月29日、広域五城目体育館で「敬老福祉の集い」を開催しました。
約450人が出席した集いでは、今年度中に70歳(古稀)、77歳(喜寿)、80歳(傘寿)、88歳(米寿)、90歳(卒寿)、99歳(白寿)、100歳(上寿)を迎えられる方々に寿状と記念品を贈り、長寿を祝い合いました。
本年8月15日現在、町の70歳以上の方は昨年の同時期より32人多い3,356人です。
本町の最高齢者は、男性が満100歳の宮城萬治郎さん(蓬内台)、女性が満106歳の加藤タミエさん(広青苑)です。

斉藤克己さんが 二科展絵画部で入選

このほど、斉藤克己さん(78歳・田町)の絵画作品「赤い鐘を鳴す」が、第104回二科展絵画部で入選されました。
斉藤さんは、「絵のモチーフにしたのは、孫の結婚式とふるさとの風景です。二科展に出品するのは60年ぶりでしたが、元号が変わったこともあって、もう一度何かに挑戦してみようという気持ちで絵を描きました。ですので、今回の入選は励みになりましたし、とても光栄に感じています」とお話ししていました。



第104回二科展で入選した作品「赤い鐘を鳴す」◎と、作者の斉藤さん◎